

団や遠野緑峰高校の馬事研究会の人材養成については。  
馬事文化の伝承のために必要な人材であり、全国に活躍の場が広がると考えている。習得した技術を活かすため、馬の里や全国各地の馬事関係団体、乗馬クラブ等への就職の斡旋等の支援にも努めている。



桜ロードレッキングの様子

農業用施設管理について

ため池一斉点検業務の委託先と結果について。  
岩手県土地改良連合会に委託し、2ha以

スクールバス運行の在り方について

スクールバス運行の事故時に対する統一したマニュアルが必要ではないか。  
校長会では、教育委員会と事業者が協議して一定のマニュアルを作るように進めていくことにしている。

小学校通学対策の中には、通学距離4km以上に路線バス委託の路線があるが、スクールバスは乗車すると直接学校に向かう。路線バスは決められたコースを運行しながら学校近くの停留所に向かう。スクールバスと違った座席や発着時間、通学に要する時間等の制約など、色々な問題点もある。例えば、附馬牛町からの中学校スクールバスが運行されているが、これに駒木地区の児童も乗車できる工夫をするべきではないか。



安全運行が求められるスクールバス

調査して見直すべきところは見直していかなければならない。学校と協議しながら適

上のため池31か所を地震の被害によるものと、防御の必要性について点検をした。結果、現在のところ緊急性のあるところはなかったが、目視による経過措置のところは1か所あった。

森林愛護少年団について

現在の市内における少年団の組織数とその活動内容は。  
鷹鳥屋・青笹・宮守・鱒沢・綾織の地域単位および小学校単位での5少年団が組織されている。森林愛護・自然観察・キャンプ等の団体生活技術の習得などを趣旨目的とし、遠野市緑化祭「里山フェスタ」への参加や緑の少年団岩手大会への参加が主な活動である。

有効な教育手段であり、林業振興にも繋がる児童の貴重な活動と考える。市内全11小学校単位での少年団結成について、教育委員会の考えは。  
植樹祭では、汗を

正な対応をしていく。停留所が学校から見て死角になっているところがある。子ども達の安全が確保されているのか。学校から目が届くように停留所の位置変更はどうか。  
路線バスの場合はすぐにできないかもしれないが、確認しながら意見を踏まえた協議をしていきたい。

流す子どもたちの姿を見る。森林愛護少年団の活動は意義深いものであると捉えている。校長会議で説明をし、結成を呼び掛けた。各小学校で検討をしている段階である。

定住増加に係る空き家リフォーム支援について

遠野市への移住者の世帯数は、平成26年度8世帯、平成27年度の実績は13世帯増となり74世帯になった。増えた要因は。  
移住相談件数は、平成26年度は60件、平成27年度は115件であり、ほぼ倍増している。で、くらす会員の制度の中で、丁寧に対応した結果が増えた要因と考えられる。

空き家リフォーム事業助成が、平成26年度と同額の10万円である。定住者が増えても、同じ金額であるが、移住者に助成額を増額する考えはないか。  
空き家リフォーム事業助成は、空き家の

所有者に対して助成する制度である。空き家の有効活用と移住者の定住を促進するため、平成28年度からは1軒あたりの助成金額を10万円から25万円に引き上げた。

市民センター裏の立木の手入れは

市民センター側の鍋倉公園斜面立木の倒木が心配される。どのように考えているのか。  
市民センターがリニューアルしたことに合わせ、平成28年度予算で対策に関わる業務の委託契約を締結し、着手する予定になっている。

公園にドックランの機能を

市内の公園に、安心して使用できるドックランの機能を持たせたエリアを考えられないか。  
公園は市民の憩いの場として誰でも利用できるが、市内にはいろいろな公園があるの

で、場所や機能について要望を踏まえて検討していきたい。



遠野町の避難所が全ての行政区で市民センターである問題点について

遠野町に避難指示が出された場合は、1区から15区まで、全て市民センターが避難所ということと間違いがないか。  
今回の台風10号の場合、遠野町は市民センターとした。

早瀬川が増水した場合、遠野町12区と13区の区民が橋を渡って市民センターに避難する事は危険であるという声が出て



9月15日に設置された東日本豪雨災害対応検証チームの会議の様子

いるが、どのように捉えているのか。  
避難準備情報は避難に時間を要する人は準備を始めて下さいという事であり、雨が降る前の時間帯にできれば避難して下さいとの情報になる。ただ、避難勧告にあつては、今回は雨が強くなつてきたところで発令したところで、指摘を受けたところでもあり、遠野町12区や13区については遠野中学校や福祉センター側が安全なことから、検証を行い検討していく。

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長菊池由紀夫議員、副委員長佐々木大三郎議員）は、条例2件、予算8件について付託を受け、審議を行いました。  
今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全10議案が原案のとおり可決・承認されました。

本庁舎整備事業費について

本庁舎建設工事の補正の理由について  
工事経過の中で、建築主事や消防署の指導があり、仕上げ工事の変更があったため、今回補正予算を計上したところである。今後は追加計上の予定はない。

工事状況について

庁舎一階の半分が駐車場で、半分が地下一階である。40本のく

い打ちが終わり、地中梁のコンクリートの打設が終わった。工事は順調と考えている。来年の6月定例会に供用開始をしたいと考えている。

介護ロボット導入について

どのような種類のロボット導入か。  
見まわり支援の機器で、認知症関係の入所者が夜間徘徊等でベッドから離れた際、セ



現在整備中の新庁舎

今後、介護士の労働的負担を軽減する介護ロボット等を導入する考えは。  
介護人材の確保関係からも労働軽減策を国の助成制度を見なが

ら、対応を検討していきたい。  
機器に頼りすぎてしまう心配はないか。  
基本的には目視確認をするようにしていく。

機器に不測の事態が起きた時、メンテナンス業者は近くにあるか。  
早急に確認し、導入される施設とも連携